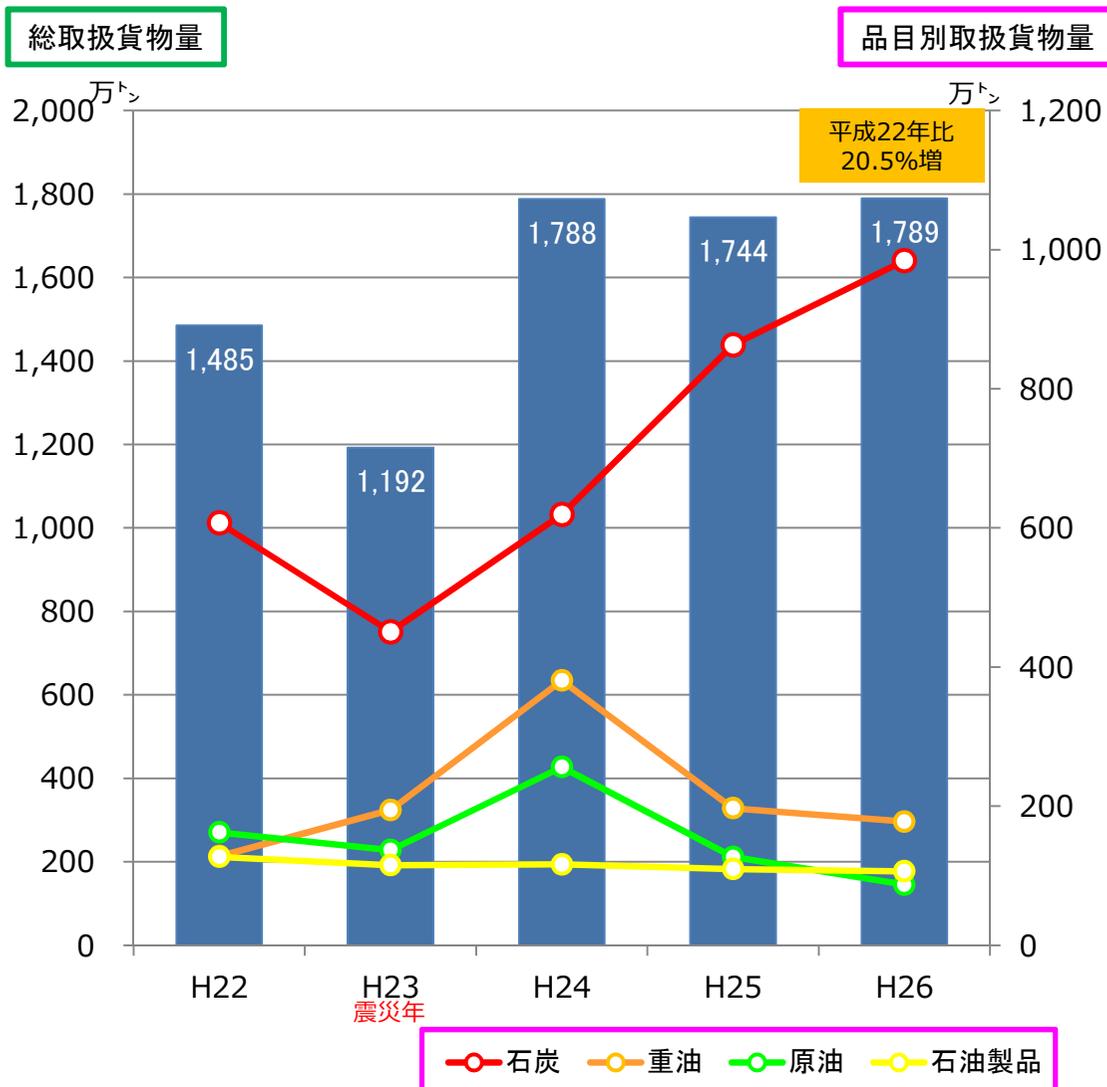


小名浜港における取扱貨物量の推移

- 平成26年の取扱貨物量は1,789万トン（前年比2.6%増・H22年比20.5%増）。
- 火力発電所のフル稼働等により石炭の取扱量が大幅に増加。



○常磐共同火力株式会社のコメント

東日本大震災以降、石炭火力発電の比重が増。今後も石炭火力発電は重要なベース電源として期待されると考えており、小名浜港における石炭の取扱量は、H27以降も引き続き高位で推移するものと見込まれる。

現在、東京電力(株)による福島復興電源プロジェクト(最新鋭のIGCCプラント50万kW級2基)が推進されており、今後の利用量の増加が見込まれる。また、他にも小名浜港背後・周辺で石炭火力発電の検討が進められていると聞いており、将来、石炭取扱量が大幅に増加する可能性がある。

その場合、効率的に石炭を輸送することができず、安定的な電力供給に支障が生じることが懸念されるため、現在小名浜港で整備中の大水深岸壁が早期供用されることを期待している。

【出典：小名浜港統計年報】